

県民まちなみ緑化事業（第4期）評価・検証 花緑検討小委員会における検討経過

県民まちなみ緑化事業と事業の評価・検証について

- 都市部における緑化を推進することで都市の環境改善や防災性向上を図るため、平成18年度から導入された県民緑税を財源に「県民まちなみ緑化事業」を実施し、住民団体等が実施する植樹や芝生化などの緑化活動を支援（緑化に要する資材費や施工費を補助）

県民緑税

（県民税均等割の超過課税）

個人：800円／年

法人：2,000円～80,000円／年

（資本金等の額による）

税込規模：5年間で概ね120億円
（個人100億円・法人20億円）

災害に強い森づくり
（森林の防災面での機能強化）

県民まちなみ緑化事業

（都市緑化の推進）

[予算：6.4億/年]

（参考）県民まちなみ緑化事業概要（第4期）

補助区分	一般緑化 	校園庭の芝生化 	ひろばの芝生化 	駐車場の芝生化 	建築物の屋上・壁面緑化 	都心緑化 				
対象者	・自治会、婦人会、老人会など、地域を基盤として活動する住民団体 ・地域住民の参画により、緑化などのテーマを目的として活動する団体、グループ ・まとまった面積の緑化が可能な土地所有者・管理者等（個人、法人等） ※芝生化に係るメニューでは、上記に加え、芝生化箇所の利用・維持管理を行う複数の者で構成される団体（芝生化実行委員会）も対象					・法人、個人、住民団体、市町等で構成される協議会				
対象地域	<table><tr><th>住民団体が公共用地で実施する場合</th><th>個人・法人等が実施する場合</th></tr><tr><td> ・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等 </td><td> ・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等 </td></tr></table> ※「校園庭の芝生化」は県下全域が対象					住民団体が公共用地で実施する場合	個人・法人等が実施する場合	・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等	・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等	・人口集中地区に所在する駅から概ね1 km圏内の区域
住民団体が公共用地で実施する場合	個人・法人等が実施する場合									
・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等	・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等									
補助率 ^(注)	住民団体…10/10		個人・法人… 1 / 2		1/2	1/2				

（注）：補助区分に応じて、別途補助限度額あり

- 第1期事業（H18～）以降、5年ごとに事業の評価・検証を実施し、必要な制度見直しを行いながら事業を継続（現在は第4期事業（R3～7）の最終年度）

花緑検討小委員会

(令和6年3月5日設置)

1 設置趣旨

県民緑税を充当して実施している「県民まちなみ緑化事業」(第4期)の評価・検証と、県内の花と緑の取組の方向性を示す「ひょうご花緑創造プラン」の改定について、まちづくり審議会の部会として「花緑検討小委員会」を設置して審議を行う。

2 検討事項

(1) 県民まちなみ緑化事業(第4期)の評価・検証

- ・事業実績や現地調査、アンケートなどから事業効果を評価・検証
- ・課題の整理と次期の事業展開に向けた検討 等

(2) ひょうご花緑創造プランの改定

- ・現プランの達成状況の評価・検証
- ・新プランの方向性及び取組目標に係る指標の検討 等

3 開催回数 令和6～7年度 計8回予定

4 委員 (令和7年5月現在 / 五十音順 (○:委員長))

氏名(敬称略)	職名	分野	備考	就任期間
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	住民参画・地域計画	専門委員	令和7年5月1日～
新保 奈穂美	東京大学 空間情報科学研究センター 准教授	緑地計画	まちづくり審議会委員	令和6年3月5日～
龍見 奈津子	一般社団法人宝塚にしたに里山ラボ 代表理事	地域活性化	まちづくり審議会委員 (公募委員)	令和6年3月5日～
○平田 富士男	兵庫県立大学 名誉教授	緑化政策	専門委員	令和6年3月5日～
山田 宏之	大阪公立大学大学院 農学研究科緑地環境科学専攻 教授	都市緑化	専門委員	令和6年3月5日～

※退任委員

氏名(敬称略)	職名	分野	備考	就任期間
藤本 真里	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授 (尼崎21世紀の森づくり協議会委員)	住民参画	専門委員	令和6年3月5日～ 令和7年3月13日

花緑検討小委員会 検討経過と今後のスケジュール

年度	開催日	会議名称	内容		備考
R5	令和6年3月5日	まちづくり 審議会	諮問(①県まち事業(第4期)評価・検証、②ひょうご花緑創造プラン改定) 花緑検討小委員会の設置		
R6			【①県まち事業(第4期)評価・検証】	【②ひょうご花緑創造プラン改定】	
	5月29日	第1回 小委員会	県まち事業(第4期)・現行プランの概要、主な論点、検討の進め方 等		
	8月23日	第2回 小委員会	県民モニター調査の結果、 第4期事業の実施状況と課題、 アンケートの実施方法と設問		
	12月24日	第3回 小委員会	アンケートの結果、 次期事業の方向性、 評価・検証報告書(素案)		
	2月19日	第4回 小委員会	評価・検証報告書(案)	次期プランの方向性等の検討	
R7	5月19日	まちづくり 審議会	審議会に検討状況を報告		↑ 県まち事業(第5期) に向けた予算協議 ↓
	6月	第5回 小委員会	評価・検証報告書 (※審議会意見等反映)	次期プランの構成、目標、推進方策	
	9月	第6回 小委員会		改定素案	県議会(9月定例会) 改正条例案(緑税延長)上程
	12月	第7回 小委員会		改定案1(パブコメ案) → ~パブコメ実施~(R8.1)	
	2月	第8回 小委員会		改定案2	
	3月	まちづくり 審議会	答申(①県まち事業(第4期)評価・検証、②ひょうご花緑創造プラン改定)		

県民まちなみ緑化事業（第4期）評価・検証報告書（案） 全体構成

I 第4期事業（R3～7）の概要

II 事業実績

- ・第4期の事業実績（補助件数、事業費、緑化面積等）を年度別、地域別、緑化手法別に整理

III 第4期事業の効果

- ・緑の効果を右記のとおり分類し、事業によって創出された緑の効果について評価・検証
- ・事業実績や事例調査、文献・知見等に基づき、事業効果を評価・検証するとともに、事業実施者や地域住民がその効果をどの程度実感しているかアンケート調査を実施

※効果の内容は5～8ページに記載

緑が持つ公益的な効果

環境効果	ヒートアイランド現象緩和
	二酸化炭素低減
	その他（防塵、騒音低減等）
景観効果	景観向上
防災効果	都市型水害発生リスク低減
	樹木による延焼防止

緑や緑化活動による波及的な効果

環境学習効果
教育環境向上効果
コミュニティ形成効果
心理的效果
その他 (生物多様性確保、健康増進、地域への愛着等)

IV 事業実施者アンケートの結果

- ・事業活用の満足度や維持管理の状況など、事業実施者へのアンケート結果の概要を掲載

V 生育状況調査の結果

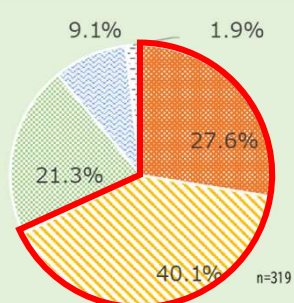
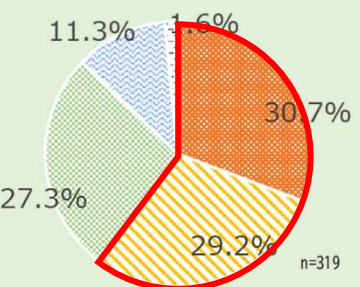
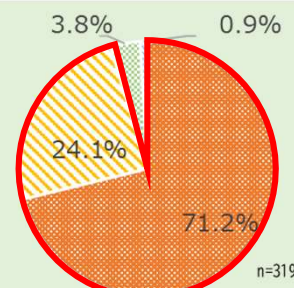
- ・事業実施箇所における緑の生育状況の調査結果概要を掲載

VI 次期事業展開の方向性

- ・緑を取り巻く社会や事業の課題を整理し、これらを踏まえた次期事業展開の方向性を提言

県民まちなみ緑化事業（第4期）の効果

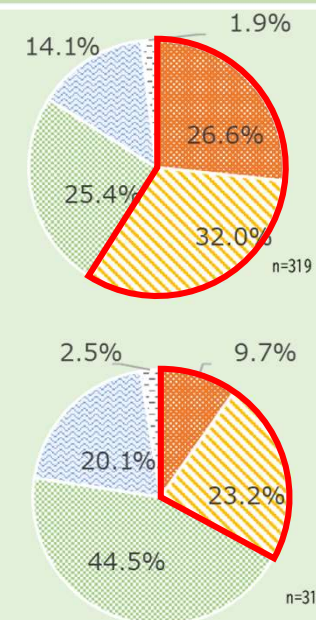
緑が持つ公益的な効果（1/2）

分類		事業による効果 ※数値は第4期（R3～6の3か年分）の実績	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果）				
			1:当てはまる	2:まあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:全く当てはまらない	無回答
環境改善	ヒートアイランド現象緩和	・約37haを緑化 ⇒地表面温度の低下に寄与 ・約11千本の高木を植栽 ⇒木陰が熱中症の危険性の低下、体感温度の低減、快適性の向上に寄与 ※事業実施箇所での暑さ指数（WGP）を測定したところ、緑化箇所（木陰内）は非緑化箇所に比べ平均2.6℃低い結果となった ・都市部で870㎡の屋上・壁面緑化を実施 ⇒冷房消費電力の削減が人工排熱の減少に寄与	Q：木陰や緑で覆われた場所が増え、涼しく感じるようになった ⇒68%  Q：砂埃や騒音の軽減など、環境が良くなった ⇒60%  Q：緑ができたことで敷地内や周辺の、景色や見映えが良くなった ⇒95% 				
	二酸化炭素低減	・約11千本の高木、約129千本の低木を植栽 ⇒ガスタンク換算で年間当たり32基分（829t-CO₂）分に相当する二酸化炭素が吸収され、温室効果ガス低減に寄与					
	防塵、大気浄化、騒音低減	・防塵、大気浄化、騒音低減に一定程度、寄与					
景観向上		・事業実施件数 913件 ⇒緑視率が上がり、景観向上に寄与 					

県民まちなみ緑化事業（第4期）の効果

緑が持つ公益的な効果（2/2）

分類		事業による効果 ※数値は第4期（R3～6の4か年分）の実績	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果）				
			1:当てはまる	2:まあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:全く当てはまらない	無回答
防災性向上	都市型水害発生リスク低減	- 地表への植樹や芝生化により、都市部において浸透面積が18ha増加 ⇒25mプール換算で1時間当たり24杯分（約9千m³/h）に相当する浸透容量が増加し、都市型水害の発生リスクの低減に寄与	Q：雨水が地面に染みこみやすくなった・水たまりができにくくなった ⇒59% Q：火災時の熱の遮断や延焼の防止などに役立つと感じる ⇒33%				
	避難経路確保と延焼防止・熱遮断	- 建物に近接して植栽された高木 約9.4千本 建物に近接した箇所での緑化件数 318件 ⇒地震時の避難経路の確保の一助になることを期待 ⇒植樹による輻射熱の遮断効果によって、火災時に人が安全に移動できる区域が約10千m²増加したと推計され、円滑な避難に寄与するものと考えられる					



費用対効果（R3～6）

投資額（事業費）24億1,800万円に対して、公益的効果の効果額は55億3,200万円※と推計

※効果額内訳

ヒートアイランド緩和効果	緑化により低減された熱エネルギーを、空調機器を使用して低減した場合の電気料金に換算	3億900万円
二酸化炭素低減効果	緑化により低減されたCO2を、Jクレジット入札販売による落札価格で購入した場合の金額に換算	800万円
環境改善・景観向上効果	先行研究に基づき、まとまった緑地整備が周辺地価を上昇させるという仮定の下、地価の上昇額に換算	27億5,600万円
都市水害防止効果	緑化により増加した地表面の浸透能力と同程度の雨水貯留槽を整備する場合の建設費用に換算	8億600万円
避難空間確保効果	緑化により増加した避難上安全な区域と同面積の土地の価格に換算	16億5,300万円

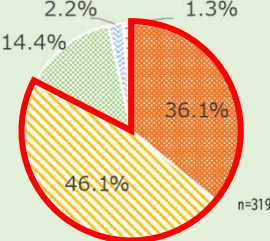
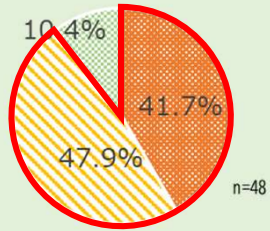
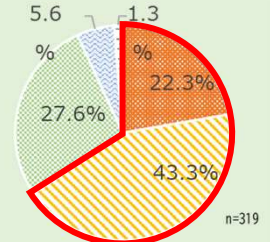
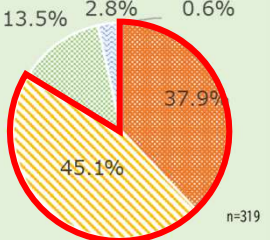
計55億3,200万円

+

上記のほか波及的効果（p.6～7）による経済効果あり

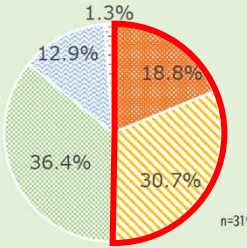
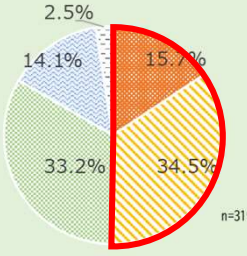
県民まちなみ緑化事業（第4期）の効果

緑や緑化活動による波及的な効果（1/2）

分類	事業による効果	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果） 1:当てはまる 2:まあ当てはまる 3:あまり当てはまらない 4:全く当てはまらない 無回答				
環境学習	地域に緑が増えたり、芝張りや植樹を県民自ら行ったりすることで、 自然に触れる機会を提供・創出  園児らによる芝張り	Q：花や緑にふれたり、鑑賞したり、興味を持ったりするようになった ⇒82%  n=319				
教育環境向上	校庭の芝生化の実施により、 外遊びの増加や、けがの減少・軽症化、生き物への興味関心の向上 など、 教育環境向上に寄与	Q：子どもたちが屋外で遊ぶ機会や、授業などで屋外を利用する機会が増えた（校庭の芝生化） ⇒90%  n=48				
コミュニティ形成	植栽や維持管理、緑化場所を活用した交流を通じて地域の コミュニティ形成に寄与  地域住民による維持管理	Q：地域の人や来訪者と会話や交流する機会が増えた ⇒66%  n=319				
心理的效果	事業により創出された緑や、緑に関係する様々な活動が、 癒しや安らぎを提供	Q：緑を見たり、過ごしたりすることで、癒されたり、和むようになった ⇒83%  n=319				

県民まちなみ緑化事業（第4期）の効果

緑や緑化活動による波及的な効果（2/2）

分類	事業による効果	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果）
生物多様性の確保	事業により創出された多種多様な緑が、生き物の生息・生育環境を豊かにし、生物多様性の確保に貢献  まちなかの事業実施場所で観察された蝶	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果） 1:当てはまる 2:まあ当てはまる 3:あまり当てはまらない 4:全く当てはまらない 無回答 Q：鳥や昆虫などの生き物を見たり、鳴き声を聞いたりする機会が増えた ⇒50% 
健康増進	事業で整備された緑地を、地域住民等が散歩やジョギング、レクリエーションなどの場として活用  芝生化した広場でのグラウンドゴルフ	Q：緑のある場所で体を動かし、緑のある場所で過ごすために外に出歩くようになった ⇒50% 
地域への愛着・誇り	事業で創出された緑が、自分たちのまちや施設に対する愛着・誇りの醸成に貢献	Q：花や緑のある自分のまちや施設に愛着や誇りを持てるようになった ⇒84% 